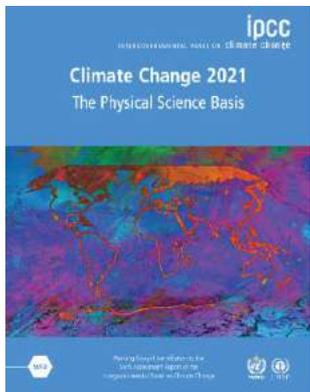


IPCC 第6次評価報告書 第1作業部会報告書 について

IPCC：気候変動に関する政府間パネル（Intergovernmental Panel on Climate Change）。科学的中立性を重視しながら気候変動に関する最新の科学的知見を評価し取りまとめた「評価報告書」を、1990年から5～8年ごとに公表している。2021年7月現在、195の国等が参加。



【報告書表紙】

<https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg1/>

【報告書の特徴】

- ✓ 地球温暖化が起きていることだけでなく、地球温暖化が**人間の影響**で起きていることを、初めて「疑う余地がない」と評価*1
- ✓ **平衡気候感度***2の不確かさの幅の低減（⇒世界平均気温の変化予測等の高精度化）
- ✓ イベント・アトリビューション研究*3の発展なども背景に、熱波、大雨、干ばつ、台風のような**極端現象**の変化を評価
- ✓ **長期スケールのリスク**にかかる要因の評価や、**地域レベルの気候変動の評価**の充実
- ✓ **インタラクティブ・アトラス***4の提供

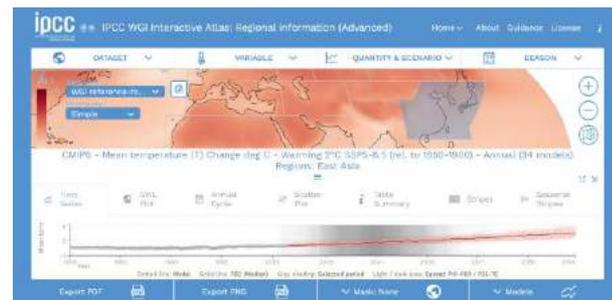
*1 報告書には以下のように記述された（SPM A.1）。

「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。」

*2 大気中の二酸化炭素濃度と気温上昇の関係を表す指標

*3 個々の気象現象における地球温暖化の影響度合いを推定する研究

*4 インターネット上で利用者が様々な条件を指定して任意にデータを視覚化できるもの



【参考：インタラクティブ・アトラス】
東アジアの気温上昇予測（グラフ）

<https://interactive-atlas.ipcc.ch/>

IPCC 第6次評価報告書 第1作業部会報告書 とは…

- ❑ 第6次評価報告書のうち、**自然科学的根拠**をまとめたもの。このほか、第2作業部会報告書（影響・適応・脆弱性）、第3作業部会報告書（緩和）及び統合報告書が作成されている。
- ❑ 65か国234名の執筆者が、14,000件以上の文献に基づき、専門家及び各国政府による複数回のレビューで寄せられた78,000件以上のコメントも踏まえて作成。
- ❑ IPCC第54回総会にて承認・受諾され、2021年8月9日に公表された。

日本からも
10名の執筆者等
が参加

SPM和訳等は気象庁
ウェブサイトに掲載
<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html>

